

—兵庫のまつり— ふれあいの祭典'91

喜歌劇 **こゝもり** 全3幕



たんば田園交響ホール

たんばオペレッタフェスティバル

篠山町ふれあいの祭典実行委員会



ふれあいの祭典実行委員会

代表会長
兵庫県知事

貝原俊氏

心ひとつに ふれあいのページェント

五弁 あいつどいて花となり
花心 豊かに熟して果実となる

都市と農村と 山村漁村と街々と
540万県民が 手を結び肩組みあい
異国の友をも その輪に迎えて
彩あでやかに咲き競う 兵庫の花
いまひらく ふれあいの祭典'91

君や知る —
汗光る スポーツのさわやかさ
心ときめく 文化創造の旋律
身にあふる 健やかな生きる喜びを
いまたけなわ ふれあいの祭典'91

人と自然 人と人 人と社会
ひとつに溶けあい 昇華する
ふるさと賛歌の大ページェントよ
こころ豊かな兵庫めざして
いまみのる ふれあいの祭典'91



喜歌劇「こうもり」公演によせて

篠山町ふれあいの祭典実行委員会

実行委員長 篠山町長 新家茂夫

さわやかな陽ざしをあびて、緑の風が吹く丹波路は野に山に秋の味覚が満たされてまいりました。

一兵庫のまつりふれあいの祭典'91の一環として「たんばオペレッタ・フェスティバル」をここたんば田園交響ホールにおいて開催する運びとなりました。

昨年のハイライト公演に続き、魅惑のウイナ・オペレッタの最高傑作、喜歌劇『こうもり』全3幕を公演いたしますが、女性キャストをはじめ、メロマン室内合奏団、篠山混声合唱団を中心にしたこうもり合唱団等地域の音楽愛好者が総力を結集してのふれあいの祭典、総勢200人が2日間「夢の舞台」に挑まれることは極めて意義深いものであります。

開幕に至りますまで、特に演出をいただきました保坂博光先生、オーケストラの指揮をされます井塚篤司先生をはじめ、特別出演をいただく諸先生には連日連夜の練習を積み重ねていただき、また当ホールのオペレータークラブにも全面的なご支援ご協力を賜り厚く感謝申し上げる次第です。

今後ともたんば田園交響ホールを拠点として、より一層の芸術文化の薫り高い町づくり人づくりが展開されますよう念願し、ご挨拶といたします。



オペレッタ「こうもり」全幕上演によせて

総監督 前川澄夫

オペレッタ「こうもり」もいよいよ全幕上演である。昨年のハイライト公演からお世話になった保坂先生をはじめ、はるばる丹波へ足を運んでいただいた諸先生方。それに刺激されて一歩二歩と前進した地元の歌手やコーラスの方々。

難しい大作に挑戦され頑張られたメロマン室内合奏団。そして忘れてはならないのはマネージャーをはじめ自分の持場に黙々と取り組まれた裏方の人達には頭の下がる思いです。

本当にありがとう。

意見の相違もあった。やけ酒もあった。そして涙も。様々な人間模様を描きながら「こうもり」の幕はすでにホールの外からも丹波の地域を舞台にして始まっていた。

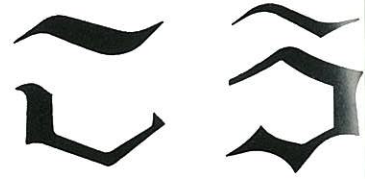
「こうもり」が結んだふれあいの心、丹波の地に新しい音楽が生まれつつある「足音」を確かに感じている。



演出 保坂 博光

たんばオペレッタ

喜歌劇



Die Fledermaus

ワルツ王ヨハン

台本・演出 寺崎 裕則による

キャスト

7日(18時)

8日(14時)

出口 武	アイゼンシュタイン	出口 武
安成 明美	ロザリンデ	小嶋 晶子
青木 真奈美	アデーレ	平野 顕子
松本 幸三	アルフレート	松本 幸三
塚田 康弘	ファルケ博士	塚田 康弘
小林 克人	フランク	佐藤 彰宏
細見 頼子	オルロフスキー	小南 智恵
森田 裕子	イーダ	河南 栄子
高山 清	プリント	高山 清
山口 耕道	フロッシュ	山口 耕道
川端 浩之	イヴァン	川端 浩之
岸本 正浩	ボーイ	岸本 正浩
森井 実生		森井 実生
三方 正明		三方 正明
八尾 滋樹		八尾 滋樹
高口 ひろえ	ゲスト歌手	小嶋 星子

合

ソプラノ	井階 知代
	友井 智恵子
	中西 早苗
	丸尾 純子
	室谷 良子
	山田 ひろみ
	矢持 元子
アルト	岡田 三千代
	片山 恭子
	鴨奥 明美
	下園 いそ子
	高橋 喜美代
	田崎 一枝
	野々口三栄子
	降矢 静恵
	山本 弘子

タフェスティバル

もり

全3幕

dermaus

ン・シュトラウス

寺崎 裕則・安藤 由布樹 訳詞



指揮 井塚 篤司

唱

テノール	足立 淳
	大堀 寛昭
	川原 俊男
	谷口 芳正
	平野 勝夫
	前川 英也
	松尾 俊和
バス	大西 康義
	荻野 徹
	河合 迪雄
	木下 茂
	竹内 和男
	藤村 仁司
	堀井 博之
	丸山 真
	山崎 浩司

メロマン室内合奏団

第1ヴァイオリン	青木 恵由	コントラバス	井塚 隆司
	清水 早苗		横井 靖男
	エイブリ みどり		岡本 典子
	須貝 武寿	フルート	波部 友美
	吉崎 弘一		青野 公彦
	木村 芳雄		細見 聡美
	萩森 学	オーボエ	田崎 泰二郎
	阿保 由美子		芝田 昌樹子
第2ヴァイオリン	西尾 昭	クラリネット	浦沢 久美
	下吉 富久子		谷口 一正
	清水 登志子		後藤 真紀
	森下 正博		森本 香奈
	竹内 礼二	ファゴット	濁池 由江
	田中 芳人		増田 雅代
	柴田 尊子	ホルン	吉田 茂
ヴィオラ	松原 恭次		杉田 圭一
	萩森 則子	トランペット	寺内 久美子
	松浦 奈々代		松本 嘉久男
	草野 保雄	トロンボーン	村山 康文
チェロ	細見 悟	パーカッション	松笠 洋三
	下園 俊昭		大西 ひろ美
	畑 雅子		岡田 英也
	勅使 義明	キーボード	前川 尚子
	豊島 正		
	松浦 永		

篠山町ふれあいの祭典実行委員会

一九九一年九月七・八日

■ 第1幕

幕があがると、風光明媚な避暑地バード・イシュルにあるウィーンの銀行家アイゼンシュタイン家の別荘の瀟洒な客間。時は、20世紀初め、ウィーンでは世紀末の真っ盛りの謝肉祭の季節。昼下り。

テラスの向うから情熱的なセレナーデが聞こえてくる。歌っているのは、4年前、この館の女主人ロザリンデにふられた音楽の先生アルフレートだ。

女中のアデーレが御機嫌で出てきて、バレリーナの妹イーダからきたロシアの貴公子オルロフスキー殿下の夜会への誘いの手紙を開く。〈アデーレの手紙の歌〉どうしても行きたくなくなったアデーレは一考を案じ、去る。

入れ替りにアルフレートが忍んで来て、寝椅子にまどろむロザリンデを抱きしめる。腕から抜けたロザリンデは、「御主人が監獄へ行ったら留守に来ていだらう」といい寄られ、何でも知っているアルフレートに驚く。もう夫が帰ってくる頃なので、気が気でないロザリンデは、早く撃退しようといふ「いいわよ」と約束する。

奥からアデーレが大泣きに泣いて出、「身寄りのないたった一人の叔母さんが重病なので今晚お暇をいただけません」と頼む。

「とんでもない、今夜、うちの人が知事を侮辱した罪で刑務所へ行くことを知っているのでしょう」とけんもほろろにいう、二人のチグハグ〈二重唱〉。

と、玄関が騒がしくなり、アイゼンシュタインが顧問弁護士ブリント博士を「お前が吃っているうちに5日の拘留が8日になった」とののしりながら登場。余りの剣幕にロザリンデが仲裁に入つての〈三重唱〉となる。

別れを惜しむ二人のところに、公証人で夜のとばりが降りれば舞踏会の司会者という社交界ではちょっとした顔のファルケ博士が来て、ロザリンデが去つたのを幸い、アイゼンシュタインをオルロフスキー殿下の夜会に誘う嬉しい〈二重唱〉となる。

刑務所へ燕尾を着て行くという夫の言葉に、何かあると日頃の勤でピンときたロザリンデ、アデーレに暇を出す。

お暇をいただいたアデーレは大喜び。アイゼンシュタインが黒づくめの正装で出て、哀しき別れの愁嘆場となるが、三人、口と腹は大違い、顔で嘆いて心で笑つてのウラハラ〈三重唱〉となる。

ひとり残ったロザリンデは、涙の乾く暇もなくアルフレートのアタックをうけ「忘れることこそ人生の幸福一」の〈二重唱〉となる。

「フィナーレI」

音楽が変わり〈刑務所行きの行進曲〉にのり新任の刑務所長フランクがやってきて、てっきり主人と思ひ込み、〈酒の歌〉をともに歌う。ロザリンデも「ここまで来たら夫になるのよ」と〈クープレ(歌)〉を歌う。

そして楽しいフィナーレの中、すっかりその気になったアルフレートは連行される。

■ 第2幕

その日の夜、バード・イシュルにあるロシアの亡命貴族、公爵オルロフスキー親王殿下宮殿の夜会。湧きたつ音楽。着飾った男女が華やかに歌い踊る。〈舞踏会の合唱〉。

金と暇をもて余す殿下に、ファルケが出、「こうもりの復讐」と題する喜劇をお目につけたい。芝居の見どころは、本人達は自分が芝居をしていることを知らないで芝居する所がみそ。と、口上よろしくいえば、一同乾杯。

実は、4年前、仮面舞踏会の帰途、こうもりの扮装のまま寝込んでしまい、いたずらっ気を起したアイゼンシュタインがそのままドロンし、目がさめてみたら黒山の人ばかり、さんざんこけにされた上、「こうもり博士」とあだ名をつけられた、その復讐というわけだ。

そこへアイゼンシュタインことルナル侯爵が颯爽と入ってくる。殿下はウォッカで乾杯し「好きなようにするのがわが家の習慣」と〈クープレ(歌)〉を歌う。

歌い終わって殿下は、アイゼンシュタインを「ルナル侯爵」、アデーレを「女優のオルガさん」と紹介したから二人の驚くまいか、「いや、うちの女中そっくり」と口走れば、「とんでもない私は女優、優と中では大違い」と〈アンサンブルとオルガの歌〉。

侯爵は笑い者にされオルガに平謝り。そこへフランクことシャグラン閣下が登場。侯爵との運命

説

寺崎裕則

的な出会いとなる。一同、賑やかに幕あきの〈舞踏会の合唱〉を歌って散る。

そこへロザリンデが妖かしのマスク(仮面)の女、ハンガリーの伯爵夫人となって現れ、ファルケは侯爵を紹介する。侯爵は女房とも知らず欣喜雀躍して女性攻略の武器“ねずみとり”と呼ばれる鈴つき時計を出し、誘惑する。怒るロザリンデ、「だが、ここは我慢のしどころ、あれこそ最高の証拠―」と〈時計の二重唱〉となる。

一同が戻ってきてイーダが「あの方がハンガリーの方なのね、どうやって証明できます?」と迫れば、ロザリンデは「音楽で一」と艶然と微笑み、激情奔る〈チャールダーシュ〉を歌う。

「フィナーレⅡ」

人々はシャンパンを手に、殿下が「ハンガリーの貴夫人を祝し、酒の王シャンパンのために乾杯!」と杯を高くあげれば〈シャンパンの歌〉があふれ出る。

夜会はクライマックス。ファルケが出て、やがて宿敵同志になるであろう侯爵とシャグラン閣下の幸福を祝して乾杯すれば、「メルシイ」と感謝し、人々はそれに和す、皮肉な〈メルシイの歌〉。

ファルケは「多くのカップルが心と心、愛で結ばれたようなので、きみとぼく、兄弟姉妹の間柄になろう」と提案、人々は大賛成し、夢のような〈きみ、ぼくの歌〉を歌う。

夜会のゲストが招かれ歌えば、イーダもシーチンスキーの〈ウィーン、わが夢の都〉を歌う。人々も和し一同、ワッツ王のポルカ〈電光と雷鳴〉を踊り将棋倒しとなる。

と、「踊ろう、めくるめく踊りの中で、ひと夜の祝祭を更に輝かせ―」と〈こもりワルツ〉がこぼれ出て人々は踊り歌う。

その時、朝の6時の鐘が鳴る。人々は夢からさめて、侯爵、閣下ともども「刑務所が待っている」と慌てて去る。

人々は大笑い二人を送り出す。〈こもりワルツ〉が高鳴って、人間模様のすべてを呑みこんで幕が降りる。

■ 第3幕

〈刑務所のマーチ〉の間奏曲が軽快に流れ、幕があがると刑務所のフランク所長室である。

二日酔いのフランクが千鳥足で帰ってくる。頭の中は昨夜の出来事がぐるぐる廻っていてワルツやポルカが口をついて出る。

そこへオルガとイーダがくる。オルガが実は女中の、アデーレと知りガックリくるが、女優志願ということが分り「才能は?」と聞けば待っていましたとばかりアデーレは歌い出す。〈アデーレの歌〉。

その時、「燕尾の男が来た」と看守のフロッシュ、慌てて女を隠せば、ルナール侯爵が現れる。

閣下は「実は私は刑務所長だ」と告白すれば侯爵も「私はアイゼンシュタインだ」と白状する。が、もう一人のアイゼンシュタインがいることが分り真青。

すると弁護士プリントがやってくる。一計を案ずるアイゼンシュタイン。プリントを買収する。

アルフレートが連れて来られたところへ、ロザリンデが来る。地獄に仏とは一と思っている所へプリントに化けたアイゼンシュタインが来る。ロザリンデは「何を訊くのかしら」と不安に戦き、アルフレートは「何だか気遅れがする」とためらい、アイゼンシュタインは「間男め、張り倒してやる」と三巴の〈三重唱〉。とど、見頭となりアイゼンシュタインが「復讐だ!!」と叫べば、ロザリンデはにっこり笑い、輝かしき戦利品の“ねずみとり”時計を見せる。頭を抱えるアイゼンシュタイン。

「フィナーレⅢ」

そこへファルケが意気揚々と登場する。フィナーレの音楽が賑やかに聞こえ、殿下を先頭に夜会の人々が喜劇の結末やかに?と来れば、ファルケは「『こもりの復讐』は終わった」ことを告げる。

アイゼンシュタインは許しを乞い「なにもかもシャンパンのせいだ」といえば、ロザリンデは、さし昇る朝日のように晴れやかに「そう、なにもかもシャンパンの泡のいたずらね」と歌う。

出演者全員、「酒の王者、シャンパンを讃え」、人間喜劇〈こもり〉は一

幕

出演者

キャスト



アイゼンシュタイン
出口 武

関西二期会所属



アルフレート
松本幸三

関西二期会所属
神戸コンセルヴァドリオ
院長



ファルケ博士
塚田康弘

関西二期会所属
神戸学院女子短大助教授



フランク
小林克人

関西二期会所属
日本シューベルト協会同人



フランク
佐藤彰宏

関西歌劇団団員
神戸オペラ協会会員



ブリント
高山 清

神戸市混声合唱団団員



ロザリンデ
安成明美

ベッラ・ヴォーチェ会員
グループ「笹の音」会員



ロザリンデ
小嶋晶子

神戸オペラ協会研究会員
ベッラ・ヴォーチェ会員



アデーレ
平野顕子

神戸オペラ協会会員
関西二期会所属



アデーレ
青木真奈美

ベッラ・ヴォーチェ会員



オルロフスキー
細見頼子

メロマン室内合奏団団員



オルロフスキー
小南智恵

ベッラ・ヴォーチェ会員
グループ「笹の音」会員



イーダ
森田裕子

神戸オペラ協会研究会員
グループ「笹の音」会員



イーダ
河南栄子

ベッラ・ヴォーチェ会員
グループ「笹の音」会員



フロッシュ
山口耕道

申楽大和座
狂言師



イヴァン
川端浩之

篠山混声合唱団団員



ゲスト歌手
高口ひろえ

埼玉オペラ協会会員
理事



ゲスト歌手
小嶋星子

ベッラ・ヴォーチェ会員

出演者

ボーイ



岸本 正浩



森井 実生



三方 正明



八尾 滋樹

こうもり合唱団

ソプラノ
アルト



井階 知代



友井 智恵子



中西 早苗



丸尾 純子



室谷 良子



山田 ひろみ



矢持 元子



岡田 三千代



片山 恭子



鴨奥 明美



下園 いそ子



高橋 喜美代



田崎 一枝



野々口三栄子



降矢 静恵



山本 弘子

テノール



足立 淳



大堀 寛昭



川原 俊男



谷口 芳正



平野 勝夫



前川 英也



松尾 俊和

出演者

バス	 大西 康義	 荻野 徹	 河合 迪雄	 木下 茂
 竹内 和男	 藤村 仁司	 堀井 博之	 丸山 真	 山崎 浩司

メロマン室内合奏団

 青木 恵由	 清水 早苗	 エイプリみどり	 須貝 武寿	 吉崎 弘一
 木村 芳雄	 萩森 学	 阿保 由美子	 西尾 昭	 下吉 富久子
 清水 登志子	 森下 正博	 竹内 礼二	 田中 芳人	 柴田 尊子
 松原 恭次	 萩森 則子	 松浦 奈々代	 草野 保雄	 細見 悟

出演者

				
下園 俊昭	畑 雅子	勅使 義明	豊島 正	松浦 永
				
井塚 隆司	横井 靖男	岡本 典子	波部 友美	青野 公彦
				
細見 聡美	田崎 泰二郎	芝田 昌樹子	浦沢 久美	谷口 一正
				
後藤 真紀	森本 香奈	濁池 由江	増田 雅代	吉田 茂
				
杉田 圭一	寺内 久美子	松本 嘉久男	村山 康文	松笠 洋三
				
大西 ひろ美	岡田 英也	ピアノ 前川 尚子	ピアノ 新家 美紀	

—兵庫のまつり— ふれあいの祭典'91

たんばオペレッタ・フェスティバル

喜歌劇 こうもり 全3幕公演

1991年 9月

7日(土)
午後6時開演

8日(日)
午後2時開演

上演
時間

1幕 1時間

2幕 1時間

3幕 50分

篠山町ふれあいの祭典実行委員会

実行委員

委員長	新家 茂夫	委員	井塚 篤司
委員	近藤 泰弘	委員	丸山 真
委員	吉竹 一郎	委員	木下 茂
委員	保坂 博光	委員	河原 勇
委員	西尾 昭	委員	細見 幸千代
委員	前川 澄夫		

主催 ふれあいの祭典実行委員会
篠山町ふれあいの祭典実行委員会
篠山町

後催 篠山町教育委員会
篠山音楽協会
メロマン室内合奏団
たんば田園交響ホール・ステージ・オペレータークラブ
篠山混声合唱団

協力 神戸オペラ協会
ウエディングサービス ことぶき
タバタ美容室